



●Tackle Guide
テンピン仕掛け、胴つき仕掛けのどちらでも構わない。僕は潮がいい感じに流れているときはテンピン式、それ以外は胴つき式と使い分けている。ビギナーの方には仕掛けが絡みにくくてアタリも分かりやすい胴つき仕掛けがおススメだ。



▲アカクラゲ対策はもうしばらく必要かも

週末は午前、午後で出船
カメラを手に動いたり、戻って竿を手にしたりの時間が続いたが、子供たちも船下で良型を釣ったりしてワイワイガヤガヤと賑やかだ。



▲東京湾のシロギスもトップシーズン突入

誘いがしつくりはない
荒川屋といえば、僕は「荒川屋軍団」を思い出す。金田湾で毎年開かれていた「和竿でシロギスを釣る会」などシロギス釣り大会が盛んだったところ、荒川屋には手練れが集ってシロギス釣りの技を磨いていた。

当時のベテランさんは、ほんのたまにしか来なくなった。今は楽しんで釣って、おいしい魚を食べたいというビギナーさんが多くなりました」と話す。
ちょっと寂しい気もするが、時代の流れだろう……シロギス釣りの「修行」という時代ではなくなった。

シロギス釣りが最盛期に入った。この時期はシロギスが産卵のために浅場に入り、抱卵したジャンボキスが活発にエサを追う。

当時、いくつかの大会にエントリーしていた僕のライバルも何人かいて、今も一部と交流は続いている。ただ、今はそんな大会も過去のものとなり、荒川屋のシロギス釣り事情もずいぶんと変わってきたようだ。おかみさんも、

▼中ノ瀬のシロギスは良型が多い



右舷胴の間の男女のグループは初めての釣りのようだが、女性もシロギスを釣り上げてテンションが上がっていた。僕も一荷釣りを含めてポツポツと数をのばしたが、誘いの感触は相変わらず？。だ。アカクラゲもかなり邪魔を

した。アカクラゲ除去用に台所用のスポンジを持ってきていたが、それが活躍してくれた。ご参考までに。
それにしても、右舷ミヨシの常連氏はなかなかのペースで釣り続けている。テンピン仕掛けでの誘いがマッチしているようだ。暑い日なのだが、午後シロギス乗合にも連投すること。

驚いたのは、釣った魚を料理してもらって食べる「釣りバック」の予約がたくさん入っていること。午前船トップの常連氏も午後船に乗った

思ったからコレだからネ……。まあ、それでもポツポツと釣って10時45分ごろに17尾で納竿。実質3時間弱の釣りだが、シロギスの型がそろっていたので土産にはなった。小型の数を狙うか、数は落ちても良型を狙うかで釣り場も異なる。悩ましいところだが、中ノ瀬から八景へ小柴沖はやはり良型狙いの色合いが濃い。
トップは右舷ミヨシ氏でキャスト30尾。15尾程度の方が多く、スンはビギナーさんで5尾というのが当日の釣果だった。サイズは15センチ級も交じったがそれは珍しく、20センチ前後が主体。いい品物がそろっていた。

本誌発売のころもシロギス釣りの最盛期は続くので、ぜひトライしていただきたい。ちなみに荒川屋では土日祝は午前午後シロギス乗合、平日は日中シロギス乗合(一日船)という形で出船している。

船宿information
東京湾奥金沢八景
荒川屋
045-701-6672
(詳細は巻末の情報欄参照)



僕は帰宅後に疲れた体でシロギスをさばいて、刺身と天ぷらでいただきました。丸まると太ったシロギスは、そりゃあもう絶品でしたよ。ビールが進みました。

後は、友人と待ち合わせて料理してもらった魚を食べる予定らしい。
釣った魚を料理してもらって食べるなんて、ぜいたくなレジャーだね……うらやましい。

うとクツ。一呼吸置いて合わせるのとクーツと竿先が入る。23センチ級のジャンボだ。長さというより太さがすごい。ずんぐりむっくりタイプの中ノ瀬らしいシロギスだ。でも、誘って食わせる感触がやはりスツキリとしない。潮の流れと誘いのベクトルが合っていない気がするのだが、混雑している状況ではキャスト

ことあるだろう。
定刻の7時半に河岸払い。ナギの海を中ノ瀬に向かって20分ちよい走り、8時ごろにスタート。水深は17メートルだ。
当日は大潮で潮が流れているので、僕はテンピン式の仕掛けを軽くキャストして誘った。左舷ミヨシに座ったので斜め右にキャストするが、仕掛けは斜め左の船下方向へけっこうなスピードで入ってくる。かなり誘いづらく、海底で仕掛けを引いた感触もスツキリとしない。
船上でポツポツと型が出始めたので、置き竿にして画撮りに動く。20センチ前後の抱卵キスが多くなって、テップリした姿が目を浴びて輝いている。うん、いいキスだ。



▲好天の週末だけあって大賑わいだった

釣って食べるがさらに進化
これまで Sand Fish は船宿の受付と同じ場所で営業していた
釣り宿が食堂営業をしている例は各地でポツポツあるが、荒川屋のダイニングバー「Sand Fish」は減茶苦茶進化した形となっている。釣りの待合所にバーカウンターができたことには正直驚いたものだが、それが今では一般の人がシーフード料理を食べにくるお店として進化、さらに釣った魚を料理してもらって食べるスペースとしても使われている。40席のお店もフル稼働しているようだ。
そんなわけで、手狭になった現在の建物の隣に7月オープン予定の釣り専用受付・待合所が完成した。釣ると食べるをバック化した企画はさらに進化しそう。
7月からは船宿専用の受付所がオープンする

良型ぞろいで釣り味満点
中ノ瀬のシロギス好調!!